

氏名	相良翔	部署	社会福祉子ども学科	職名	助教
研究分野	福祉社会学、犯罪社会学、司法福祉論				
学位	修士(社会学)				
学歴	2011年3月 上智大学大学院 総合人間科学研究科 社会学専攻 博士前期課程 修了				
経歴	2011年4月～2014年3月 更生保護施設 補導員				
所属学会(役職)	ヨーロッパ犯罪学会, 日本社会学会, 日本犯罪社会学会(本部事務局会計委員), 福祉社会学会, 日本社会病理学会, 日本保健医療社会学会, 関東社会学会				

【2017年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	自分を信じることから「立ち直る」—向き不向きよりも前向きに	単著	セルバ出版、152ページ	相良翔	2018年3月
2	当事者が支援する——薬物依存からの回復 ダルクの日々パート2(6章、7章、用語解説、おわりに)ISBN 9784861105845	共著	春風社、272ページ	南保輔・中村英代・相良翔	2018年3月
3					
(2) 論文					
1	更生保護施設在所者の『更生』—『更生』における自己責任の内面化	単著	ソシオロジ 62(1) 115-131(査読有)	相良翔	2017年7月
2					
3					
(3) 学会発表					
1	“Expertise” of offenders rehabilitation facilities in Japan.	単著	the 3rd World Congress on Probation, Tokyo	相良翔	2017年9月
2	非行からの「立ち直り」に向けた介入における潜在的な「害 harm」の検討	単著	第44回日本犯罪社会学会、東京	相良翔	2017年9月
3					
(4) その他					
1	該当なし				
2					
3					
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	文部科学省: 科学研究費基金(若手研究(B))	薬物処遇重点実施更生保護施設における処遇とその効果に関する研究(研究代表者)			2016年4月 - 2020年3月
2	文部科学省: 科学研究費補助金(基盤研究C)	薬物依存者の「回復」コミュニティのマイクロ社会学的研究			2017年4月 - 2020年3月
3	文部科学省: 科学研究費補助金(基盤研究C)	「立ち直り」概念の理論的検討をふまえた非行少年の社会復帰プロセスに関する研究(研究分担者)			2015年4月 - 2018年3月
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					
1	医療社会学	2017.10～2018.2	<ul style="list-style-type: none"> ・医療社会学における基礎的な理論や概念について講義し、医療社会学の基礎を身に付けるように促した(前半)。 ・医療社会学に関する基礎的なテキストをもとにグループ学習を行い、それぞれの学生が興味を持つテーマにそったレポートを作成できるように指導した(後半)。 ・疑問や質問についても随時聞き取り、講義に活かした。 		

2	現代社会と福祉	2017.10～2018.2	・社会福祉学における中核的な理論や概念について発展的な講義し、それぞれの学生が興味を持つテーマにそったレポートが作成できるように指導した。 ・毎回の講義においてリフレクションペーパーを用意し、学生の声を反映した。 ・穴埋め式のレジュメを作成し、講義に集中できるように工夫した。	
3				
(2) 演習				
1	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2017.10～2018.2	・グループワークに関する演習科目の担当者として関わった。 ・学生のグループディスカッションやロールプレイに関わり、適宜助言・指導を行った。 担当は15名	
2	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2017.10～2018.2	・コミュニティアプローチに関する演習科目の担当者として関わった。 ・学生のグループ活動が円滑になるように、適宜助言・指導を行った。 担当13名	
3	社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	2017.4～2018.2	・『非行からの立ち直り』などの社会問題をテーマにして、専門書を購読し、グループ討議を行った。 ・社会問題に取り組む最前線の現場に訪問するなどして学習を深めた。 ・学習した内容をレポートや卒業論文で表現するための教育を行った。 ⅠとⅡの履修者は9名、ⅢとⅣの履修者は7名	
(3) 実習				
1	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2018.2～2018.3	・障害者施設・高齢者施設の7施設10名を担当した。 ・実習中に巡回指導を行い、学生や実習指導者と協議し、よりよい実習になるよう指導や調整を行った。	
2	IPW実習	2016.8～2016.10	・北埼玉地域担当教員として、それぞれの施設での実習が円滑に進むように環境整備や助言を行った。	
3	ソーシャルワーク実習事前指導Ⅱ	2017.4～2017.6	・実習経験をもとに学習をより深めるために、授業準備や資料作成を行った。担当10名。	
4	ソーシャルワーク実習事前指導Ⅰ	2017.10～2018.2	・実習に必要な知識や技能の習得のため、授業準備や資料作成を行った。担当10名。	
(4) 論文指導				
1	卒業研究(社会福祉)	2017.4～2018.2	・卒業研究の内容をより深めるための指導を行った。担当7名。	
2				
3				
(5) その他				
1	公務員試験における学習相談	2017.4～2017.10	・公務員試験を受験する者に対して、学習のアドバイスや添削等を行った。	
2	国家試験における学習相談	2017.5～2018.1	・国家試験受験者に対して、学習のアドバイスを行った。 ・『国家試験対策応援講座』を2回担当した。	
3				
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	社会福祉士実習指導者講習会	埼玉県立大学	実習プログラミング論、開催責任者	2017年6月、7月
2	BLUECROSS MOVEMENT Vol.1	BLUECROSS MOVEMENT	実行委員会、語り場の司会	2017年10月
3				
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称		任期
1	BLUECROSS MOVEMENT(非行少年たちの社会的自立支援のための運動)	実行委員		任期なし
2	日本犯罪社会学会	本部事務局会計部委員(15期、16期)		2015年1月-2017年10月、2018年1月-2020年10月
3				
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月

1	該当なし		
2			
3			
5. 学内運営(委員会委員)			
1	1年次学年担当		
2	情報図書委員会		
3	IPW科目担当者会		
4	学生対応		
5	オープンキャンパスの運営		
6	研究室の解放		
7	スタッフルーム運営		
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
	該当なし		